

二十歳^{はたち}の節目を迎えられた皆さんの輝かしい門出を心からお祝い申し上げます。

これまで支えていただいた多くの方々に対する感謝の気持ちを忘れずに、未来を担う皆さんが、大きく飛躍されることを期待しております。

去年は、三菱重工浦和レッズレディースが、WEリーグ2シーズン目にして初優勝を飾りました。1シーズン目での2位の雪辱を果たし優勝までたどり着いたその姿は、私たちに夢と希望を与えてくれました。

また、映画『翔んで埼玉～琵琶湖より愛をこめて～』が公開されました。前作に続いて今回もディスられるのは「いい加減にしてくれ」とも思いましたが、大いに話題となりました。同時に、今回も「埼玉への愛」を強く感じさせられました。

一方で、国勢調査開始以来、全国で唯一増加を続けてきた本県の人口が、ついに減少に転じ、75歳以上の高齢者の人口は全国で2番目の増加率となりました。

本県は、現在、人口減少・超少子高齢社会の到来、更には自然災害の激甚化・頻発化という二つの歴史的課題を抱えており、大きな曲がり角に直面しています。

こうした歴史的課題に敢然として立ち向かい、10年先、20年先を見据えた未来志向の施策を進めることで、持続的に発展する埼玉県を築いていきたいと考えています。

そのために、埼玉版スーパー・シティプロジェクトの拡大や、埼玉版FEMAの推進による危機対応力の強化を更に推進していくとともに、DXの推進と不断の行政改革、社会の宝である子供への支援の強化、女性や高齢者の活躍の推進など、本県の持続的発展に向けた取組を進め、「日本一暮らしやすい埼玉」を皆さんと共に創り上げたいと思います。

今年、本県の偉人である渋沢栄一翁の肖像がデザインされた新一万円札の発行が予定されています。渋沢翁は、20代で奮闘し、欧州視察で見聞を広めたことで、その後の人生に大きな影響を受けました。33歳の若さで、みずほ銀行の前身である第一国立銀行の創設に携わるなど、生涯を通じて、銀行や保険会社をはじめとした約500の企業の育成に関わり、不断の努力で日本経済の発展に貢献しました。

新しい時代を切り拓くには、若い皆さんの力が必要です。大きな可能性に満ちている皆さん一人一人が、夢の実現に向けて挑戦し、活躍することが、埼玉県ひいては日本を元気にする原動力となります。埼玉を愛する皆さんの多彩な活躍を心から願っています。

令和6年1月

埼玉県知事 大野元裕